

教会政治の神学

改革派の教会政治原理とは

吉岡契典 [著]

【大森講座 35】

四六判・並製・101頁・本体1,000円（税込定価1,100円）
ISBN 978-4-400-31709-8 C1016

教会政治は神学の課題である

本来〈教会政治〉を考へることなしに教会論はあり得ないはずなのに、それが神学的考察の主題と考えられることは少なかった。著者は、その理由を神学史的に探りながら、〈キリストの王権〉という教会の本質目的に仕える確たる手段として、教会政治が神学的主題とならねばならないと説く。そして、教会の状況と文脈に応じる可変的な教会政治の一例を、改革派の教会政治原理である〈長老主義教会政治〉に見出し、その歴史的由来と原理を考究する。教会政治に新たな光を当てる本書は、改革派のみならず教会論に関心をもつすべての人に推奨される。

吉岡契典（よしおか・けいすけ）

1976年8月18日生まれ。青山学院大学、神戸改革派神学校卒業後、日本キリスト改革派仙台カナン教会牧師就職。牧師の働きをしながら、東北学院大学院文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程を修了。後期課程単位取得後退学し、渡米。カルヴィン神学校（Th.M.）卒業後、2014年より日本キリスト改革派板宿教会牧師。また、神戸改革派神学校常勤講師（教会論、終末論、宣教学、宗教改革史）。

【目次より】

- 第一章 教会政治とは何か——序論的考察
- 第二章 教会政治が神学と見なされない理由
- 第一節 教会政治の神学についての研究状況
- 第二節 「政治」、「規程」等の言葉の持つ世俗性
- 第三節 ルター派の二王国論による教会対政治の二元論的理解
- 第四節 ルードルフ・ゾームとブルンナーによる拒絶
- 第五節 無教会主義
- 第六節 長老主義教会政治神学に見る護教論的傾向
- 第三章 教会政治が神学として取り扱われるべき理由
- 第一節 教会政治の史的概観
- 第二節 教会政治の神学的扱ひの必要性
- 第四章 改革派教会の反聖職者位階制的教会政治原理
- 第一節 司教制へのアンチテーゼとしての長老主義教会政治
- 第二節 ヨハネス・ア・ラスコとロンドン亡命者教会
- 第三節 長老派の中間中心主義についての反省
- 第四節 教会政治の霊性
- 結論